

この子らと

第10号平成30年2月

まことの保育

子どもは風の子。元気
いっぱいです



鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

冬しぐれ、降り入る暗き帰り道
子の待ち顔の浮かびて愛し



ひかりの春

立春（2月4日）から春分の日（3月20日）にかけては、まだまだ厳しい寒さが続きますが、そんな時に窓からさしこむ光や太陽のぬくもりに春の温かさを感じます。そのことを「光の春」というそうです。

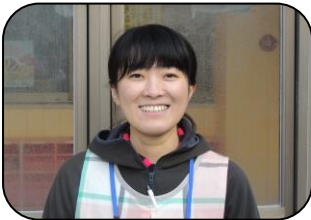
また、雪解けのせせらぎや鳥のさえずりなどは、「音の春」というそうです。・・・美しい日本語だと思います。

甕島に在勤していた頃、「うぐいすが谷を渡る鳴き声」が島中に響き渡りますと「いよいよ春、到来ですね。」とあいさつがかわされました。

転入職員のご紹介

山下真美子(常勤教諭)

鞍掛美紀(給食調理員)



よろしくお願いいたします。

ものは、考えよう

「ものは考えよう」という言葉があります。どんなことでも、考え方次第で良いようにも悪いようにも受け取れるからです。

これまで一生懸命に取り組んできたことが行きづまったとき、「もう、自分はだめだ」「これで

人生も終わりだ」と思うこともできますし、「いや、自分でも、まだ気づかない能力や可能性があるはずだ、探してみよう」と思うこともできます。

困ったとき、つらいことがあったときに、明るく、前向きに希望を見つけていく考え方を「善循環思考」といいます。

善循環思考による前向きな生き方は、次の善（良いこと）を次から次に運んできます。悪い方へ悪い方へと考える「悪循環思考」に陥らないためにもポジティブな生き方ができればと思います。

わたしたちの生き方にとって大事なことは起こってくる出来事よりも、そのことをどう受け止めていくかが、より大切だと思います。



和光幼稚園のめざすもの

人類のたどった道は、数十万年前の原始時代、石器時代から江戸時代等を経て今の物質的に豊かな時代になりました。

ある4歳の幼児が両親に連れられてはじめて草深い田舎に行きました。戸外で精いっぱい遊び、そして外で見つけたものを握りしめて帰ってきて母親に聞きました。「これ、なーに」と。尋ねたものは「いしころ」だったそうです。

ある心理学者は、10歳までに原始時代から現代までも追体験しないと人として、子どもたちは、健全に成長していかないと断言しています。

そのためには、砂遊びやどろんこ遊びをしたり、野山を走り回ったりして、からだ全体で心の底から感じる体験が必要とされています。このことは、本園がめざしている教育の根底にあるものです。

幸せならざるが不幸ではない。幸せと気づかざるのが不幸なのだ。（親鸞様の言葉）

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|